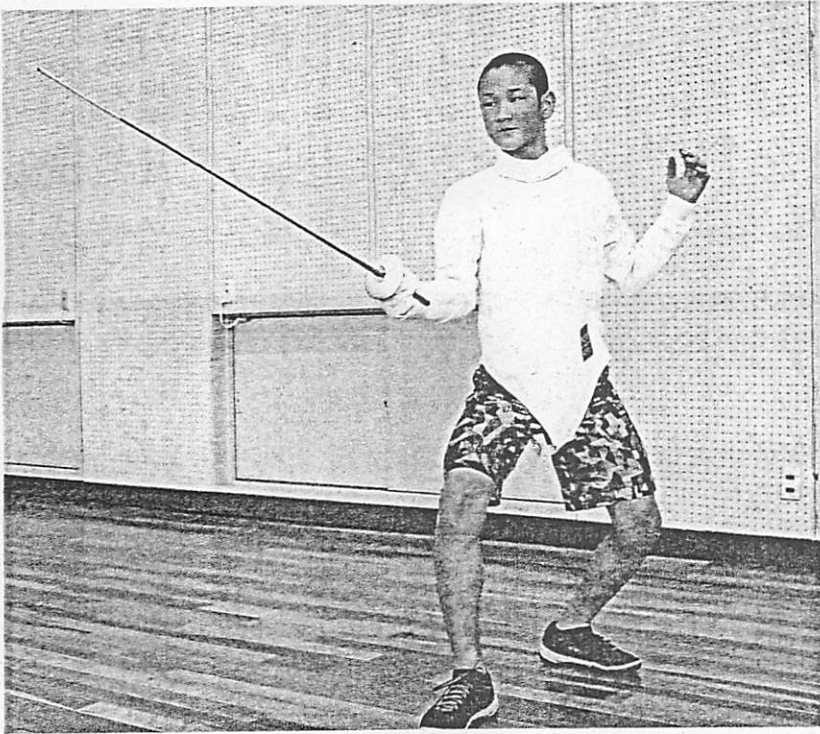


栗東・葉山中 深尾さん

陸上・フェンシング 両刀

相乗効果で全国目指す

相手の動きを読み、隙を見つけた瞬間、鋭く剣で突く。「フェンシングで瞬時に判断する感覚は、陸上で身についたもの」。小学生の時から県内の陸上の大会で好成績を残してきた葉山中2年の深尾侑樹(紀)さん(13)は、栗東市出庭は、フェンシングにも挑み、両競技で全国大会を目指している。



剣を手に構える深尾さん。剣を操る手首は毎日、鍛えるという

(大津市におの浜4丁目・県立体育館)

「勝ち負けがはっきり分かるスポーツが好き」といい、小学4年から、栗東陸上教室に入り、陸上に打ち込んでいた。全国小学校陸上競技交流大会の地方大会で、小学4、5年の時に100メートルで1位、小学6年の時は80メートルハードルで2位を記録した。

県下次世代アスリート育成プロジェクトで、小学6年の時にフェンシングを初めて体験し、道具を使うスポーツに新鮮さを感じた。剣を素早く突くことができた時の面白さに魅了され、次第に「強くなりたい」と夢中になった。県フェンシング協会の滋賀ジュニアフェン

シングクラブに所属し、県立体育館(大津市)などで技術を磨く。フェンシングでは、陸上で鍛えた脚力も強みになり、剣を突くスピード力につながった。同協会の畑中正道事務局長は「体験当時からフェンシングに必要な筋力のベースがしっかりあった」と振り返る。

陸上は中学では棒高跳びにも取り組み、昨年10月の県秋季総合体育大会で自己ベストの2メートル30センチをマークし、手応えを感じている。1日に二つの競技のトレーニングをこなすこともあるが、「それぞれ目標があるから気持ちを切り替えるのは難しくない。両方の競技で成長していきたい」と力を込める。

(杉原慶子)



昨年の県中学校秋季総合体育大会で棒高跳びの自己ベストをマークした深尾さん(深尾さん提供)